

テーマ	日本における数学授業レキシコンの特徴の顕在化に向けた比較文化的研究
発表者	舟橋友香 (奈良教育大学), 清水美憲 (筑波大学), 辻山洋介 (千葉大学), 日野圭子 (宇都宮大学), 平林真伊 (山形大学), 康孝民 (筑波大学人間総合科学学術院院生),
指定討論者	Carmel Mesiti (University of Melbourne)
趣旨及び概要	<p>本研究は, 学校数学の授業を計画したり教授・学習行動を記述したりするために教師が用いる語彙群を「授業レキシコン」と呼び, 日本の数学の授業レキシコンの体系化を目指す. この授業レキシコンについて, 社会文化的背景の異なる他国の授業レキシコンと比較し, 「我が国に固有の『授業論』の構成やそれを支える教授概念, 及びそれらに基づく教師の教授行動の特徴は何か」という問いを, 比較文化的観点から探究する.</p> <p>本発表は, 昨年の発表に引き続くものであり, 以下の研究課題に焦点を当てる.</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 数学の授業レキシコンの体系化に向けた理論的基礎に関する検討(2) 授業レキシコンに関するテキストマイニングによる日本の特徴の顕在化と事例的検討(3) 数学の授業力の形成に関わる授業レキシコンの特定: 日韓の比較から.